

## 1 スクール・ミッション

「校是『至誠』のもと、何事にも誠心誠意全力で打ち込む生徒を育成するため、主体性の向上、高い進路希望の実現」を教育目標とし、探究的活動、海外学校間交流等、特色ある教育活動を展開し、自己発見、自己実現、自分と世界を自分で創る力を育成します。

## 2 スクール・ポリシー

### (1) グラデュエーション・ポリシー

将来への目的意識をはっきりもち、積極的に考え行動し自ら進路を切り開く力の育成

### (2) カリキュラム・ポリシー

基礎的・基本的な知識を幅広く身に付けさせ、将来の進路を決定する基盤を作り、国公立大学入試にも対応できるカリキュラム

### (3) アドミッション・ポリシー

幅広い分野に興味をもち、主体的に学習、行事、部活動に積極的に取り組む生徒

## 3 中期的目標と方策

### (1) 予測困難な時代を生き抜くための「基盤となる力」の育成

本校の教育活動全体を貫く中期的な目標として、生徒が、正解のない課題に対しても自ら問いを立て、情報を活用し、主体的に考え続ける力を「基盤となる力」として位置付け、その育成を図る。

「基盤となる力」は、以下の三つの要素で構成するものとして定義する。

- ① 問いを立てる力：現状に疑問をもち、自分なりの問いを設定できる力
- ② 考え続ける力：他者との対話・情報活用を通じて思考を深め、更新し続ける力
- ③ 表現・行動する力：考えを言語化・可視化し、他者に伝え、フィードバックを受け改善できる力

この「基盤となる力」を支える土台として、言葉の力（語彙・読解・要約・批判的に読み取る力）と情報活用能力を重視する。

その育成のため、教科の学び、探究活動及び進路指導を「基盤となる力」の育成という共通の視点で整理し、一貫した指導を行う。

### (2) 学びを支える組織的な取組の推進

(1)の「基盤となる力」の育成に向け、定期考査・模擬試験・授業評価・学校評価等の分析から授業改善までの流れ（PDCAサイクル）を教科ごとに検討し、学校全体で共有するなど組織的な取組を推進する。

あわせて、生徒一人ひとりの学習方略の確立を支援する取組を推進する。

また、学校図書館等を活用し、生徒が読書に親しむ機会を充実する。

進路指導においては「基盤となる力」を基に、生徒に一段高い目標を目指させるとともに、生徒自身がなぜその進路を選ぶのか説明できるよう指導する。

### (3) 主体的・協働的で深い学びの定着のための学習環境の整備

(1)の「基盤となる力」の育成に向け、O365などのクラウドサービスを、生徒が考え、対話し、協働する学びを支える道具として活用する。各授業や単元の終末に生徒が「次の問い」を自ら設定する振り返りを定型化し、深い学びにつなげる環境を整備する。

あわせて、デジタル技術を活用した教育の推進を学校の重点として位置付け、授業改善と校務改善の両面から、学校全体でDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する。

#### (4) 学校行事・特別活動等を通じた自主的・実践的な態度の育成

「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決すること（高等学校学習指導要領『特別活動』）」を目標に、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事等において、生徒が課題を自ら見だし、話し合い、合意形成を経て実践し、振り返るという一連の過程を設定する。

これに関連し、部活動においても生徒の自主的な態度の育成を図る。

#### (5) 生徒一人一人の心と体を支える支援体制の充実

「基盤となる力」は安心して学べる環境があってはじめて育まれるという認識のもと、学習指導と生徒支援を教育活動の両輪として推進する。

いじめの未然防止・早期発見・早期対応を徹底するとともに、不登校・中途退学の未然防止及び早期支援を推進する。また、いじめに関する授業及び教職員研修を計画的に実施し、SOSの出し方に関する教育の実施及び相談先の周知等、生徒の自殺対策に資する取組を推進する。

特別な配慮を必要とする生徒に対し、養護教諭・スクールカウンセラー・学年担任・生活指導部が情報をリアルタイムで共有し、早期発見・早期支援できる体制を整える。発達障害等の特別な支援を必要とする生徒については、合理的配慮の提供と組織的支援体制の充実を図る。

#### (6) 開かれた学校経営と組織風土の醸成

本校の教育活動を持続的に発展させるために、以下の三点を推進する。第一に、インターネット上の広報活動や学校説明会の質的向上を通じて本校の教育活動を広く発信し、生徒自身が本校の魅力を語る「生徒主体の広報」を定着・発展させる。第二に、業務の偏在を組織的に解消し、すべての教員が教育活動に集中できる体制を構築する。第三に、働き方改革を継続し、教員が長く意欲をもって働き続けられる学校をつくる。

あわせて、服務事故の根絶を重要課題として位置付け、服務規律の徹底とコンプライアンス意識の向上を組織的に推進する。

### 4 今年度の取組目標と方策

#### (1) 学習指導

##### 【取組目標】

スクール・ポリシーを踏まえた教科指導として、「基盤となる力」の①問いを立てる力・②考え続ける力・③表現・行動する力を意識した授業づくりを推進し、生徒の主体的な学習の習慣を確立する。

東京都教育ビジョン（第5次）、「2050東京戦略」及び「東京都学校教育情報化推進計画」等を踏まえ、デジタル技術を活用した教育（DX）を推進する。

##### 【具体的な方策】

##### ア 授業改善の組織化

各教科において定期考査・模擬試験・授業評価・学校評価等のエビデンスを基に分析し、「基盤となる力」の育成に向けた改善策を協議し、反映する。成績会議において成果と課題を全体で共有する。

また、教員相互の授業参観を実施し、各教科の工夫を学校内に展開する。

#### イ 振り返りの定型化

授業や単元の終末において生徒自身が立ち止まり、自分の理解と疑問、学びの意義を言語化する取組を定型化する。これを繰り返し、自分で問いを立てて学ぶ習慣を育成する。

#### ウ クラウドサービスを活用した学びの充実

全ての生徒が自分の考えをクラウドサービス等に入力し、他者参照を行うことで多様な意見に触れ、自分の考えを比較・深化する機会を創出する。

複数の課題を用意し、生徒が自ら選択して取り組むことで、学習進度に関わらず全ての生徒が充実した学習経験を得られるよう、個に応じた学びの場を整備する。

紙の課題を可能な限り取りやめ、電子ファイルに置き換えていく。過去の学びを生徒自身が整理し、学習の積み重ねと自らの成長を容易に確認できるようにする。

#### エ 読書活動の推進（「基盤となる力」を支える言葉の力の育成）

学校図書館の活用を通じて、生徒の語彙・読解・要約・批判的読解の力を伸ばし、「問いを立てる力」「考え続ける力」「表現・行動する力」の土台を強化する。

具体的には、授業・探究と接続したブックリストの提示や校内ビブリオバトル等により、生徒が自主的に読書に親しむ機会を体系的に整備する。

### (2) 進路指導

#### 【取組目標】

探究活動・キャリア教育を「基盤となる力」の育成と一体化し、生徒が3年間を見通した進路意識を主体的に形成できるよう指導する。また、不合格要因の分析を組織的にを行い、受験指導の精度を高める。

「東京グローバル人材育成計画‘20」及び「東京グローバル人材育成指針」を踏まえ、基盤となる英語力の向上と、国内外の課題を解決する創造的・論理的思考力の育成を通じて、一段上のグローバル人材を目指す取組を推進する。

#### 【具体的な方策】

#### ア 探究と進路の接続

総合的な探究の時間で取り組むテーマを、生徒自身のキャリア意識と結びつけ、「問いを立てる力」を進路選択に生かす。

#### イ 不合格要因の組織的分析

卒業生の進路結果を学習計画・受験戦略・過去の指導・支援内容などの観点から分析し、指導改善に反映させる仕組みを構築する。

#### ウ 英語検定の活用

準2級以上の合格者増を継続させるとともに、2級・準1級への挑戦者を組織的に発掘・支援する。

### (3) 生活指導

#### 【取組目標】

都立高校生活指導指針に基づき、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課

題を解決する。

#### 【具体的な方策】

##### ア 自ら判断する力を育てる生活指導

規程やルールの背景・意義を守らせる指導を継続するとともに、その背景・意義を生徒自身が考え、自ら判断・行動できる力を育てる指導を行う。

##### イ 行事の主体的運営

各行事を生徒が企画・運営・振り返りまでを担う経験を積み重ねる。

#### (4) 心身の健康づくり・生徒支援

##### 【取組目標】

いじめの未然防止・早期発見・早期対応を徹底するとともに、生徒指導提要（令和4年12月）及び「チャレンジサポートプラン」（令和6年10月）を踏まえ、不登校・中途退学の未然防止及び早期支援を推進する。さらに、いじめ総合対策【第3次】を踏まえ、いじめに関する授業及び教職員研修を計画的に実施する。

また、自殺対策基本法の改正を踏まえ、SOSの出し方に関する教育の実施及び相談先の周知等、生徒の自殺対策に資する取組を推進する。

いじめアンケートや学校評価、個々の生徒情報などエビデンスを基に、誰もが安心して学べる環境づくりに取り組む。必要な情報を早期に共有し、問題の早期発見・早期支援の体制を強化する。

##### 【具体的な方策】

##### ア 学年・分掌・委員会の連携強化

教育相談委員会を中心に気になる生徒や生徒同士のトラブルへの対応策を検討・実施する。

また、デジタルを活用し、必要な情報を早期に共有する仕組みを構築する。

発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への支援については、「特別支援教育の推進について」（平成19年4月1日付19文科初第125号）の趣旨及び「東京都特別支援教育推進計画（第二期）第三次実施計画」を踏まえ、合理的配慮の提供と組織的支援体制の充実を図る。

##### イ SCの活用促進

SC2名体制を生かし、生徒が相談しやすい環境づくりと、担任等からの積極的な利用勧奨を行う。

##### ウ 体力向上の継続

「TOKYO ACTIVE PLAN for students」（総合的な子供の基礎体力向上方策（第4次推進計画））を参考に、体育授業内でのデータ入力を継続し、生徒が自身の体力の変化を主体的に把握・改善する意識・習慣を育成する。

#### (5) 募集・広報活動

##### 【取組目標】

「基盤となる力」を育てる学校としての本校の特色を、インターネット・学校説明会・中学校訪問等を通じて発信し、本校の教育に共感する入学希望者を増やす。

##### 【具体的な方策】

##### ア 情報発信の質的向上

ホームページの内容を刷新するとともに、新たにSNSを活用し、中学生が志望校を選ぶために必要な情報を適切に掲載する。また、授業や行事などにおいて主体的に活動する生徒の姿に掲載する。

##### イ 生徒主体の広報継続・発展

生徒会・庶務委員会の生徒が中学生に本校の学びを語る「生徒主体の広報」を継続するとともに、卒業生が本校の学びを語る機会を設定する。

#### ウ 中学校等向けの広報活動の効率的運営

今後開拓すべきエリアへの広報活動を重点的に行う。

### (6) 学校経営・組織体制

#### 【取組目標】

「基盤となる力」の育成を学校全体で推進するための組織体制を整え、業務の平準化と同僚性の高い職場づくりを進める。

服務事故の根絶を重要課題として位置付け、服務規律の徹底とコンプライアンス意識の向上を組織的に推進する。

あわせて、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進により、授業改善と校務効率化（働き方改革）を両立させる。

#### 【具体的な方策】

#### ア 管理職のPDCA関与

定期考査・模擬試験・授業評価・学校評価等のエビデンスを基に分析し、改善を図る場面に管理職が定期的に参加し、学校全体の取組の進捗を継続的に把握・改善する。

#### イ 業務の平準化

業務量が一部の教員に偏在しないよう、分掌・学年等の業務量の実態を定期的に把握し、組織的に調整する。

#### ウ 働きやすい職場環境（働き方改革の推進）

「学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラム」（給特法第8条に基づく「業務量管理・健康確保措置実施計画」）及び「学校における働き方改革の推進プラン」を踏まえ、業務の平準化と会議運営の効率化、デジタルを活用した校務改善を推進する。

男性の育児休業取得を含むワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組を継続し、教員が「基盤となる力」の育成に集中できる職場環境を整備する。

## 5 数値目標

- 生徒意識調査「授業で学んだことについて、自分なりの疑問をもちながら考えることができている。」  
肯定的回答率：80%以上
- 国公立・難関私立・GMARCH合格者延べ人数 目標値：190名以上（前年度：182名）
- 学校見学会・個別相談会参加人数 目標値：前年度以上（前年度：8,656名）
- 「都立高校全日制等志望予定（第1志望）調査（東京都中学校長会進路対策委員会・東京都教育庁）」  
倍率：2.05倍以上（前年度：2.04倍）